

(様式1)

1 自己評価及び外部評価

作成日 令和 3 年 11 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3474800376		
法人名	優輝福社会		
事業所名	グループホームみら屋		
所在地	広島県三次市三良坂町三良坂1789-2 (電話) (0824) 44-3008		
自己評価作成日	令和3年8月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3474800376-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年10月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様本位の個別ケアと、田舎の自然の中で五感に積極的に働きかける取り組みをベースにしています。みらみら農園で野菜の植え付け、水遣り、草取り、収穫を皆さんでやり食材となりました。スイカを何度もおやつに食べて頂き季節を感じて頂きました。職員は利用者様のパートナーとして「一緒に大笑い 楽しい一日を有難う」を合言葉に、寄り添い 共に暮らしていく家族の様に、住み慣れた我が家となることを目指しています。地域とのつながりを持ち続ける様に取り組まなければいけませんでした、コロナ禍の為地域との交流は持てませんでした。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念とともに事業所の方針である「一緒に大笑い、楽しい1日をありがとう」をコンセプトとし利用者の生活が笑顔で溢れるよう支援に尽力している。「こうしようルール」という法人全体の職員行動規範があり、利用者本位のケア、業務における基本姿勢、資質の向上に至る内容が詳しくまとめられており、職員は毎日項目を読み合わせ理解を深め方向性の統一を確立し実践に努めている。自然豊かな環境であり、季節の移ろいを穏やかに感じられ、「みらみら農園」という畑で種植えから収穫まで通して利用者と一緒にすることが定着しており、できた野菜などは食事やおやつで食卓にあがり喜びや充実度が得られ生活の張りに繋がっている。コロナ禍で地域、人との交流や外出が難しい状況下も、地域清掃活動を継続し住民とのふれあいの機会を持っている。今年度、タブレットを導入し一層の情報共有図りケアの向上に務めている。
--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっている。	理念をもとに、全職員が入居者と共に笑顔で生活している。	法人の理念の基、「笑顔、大笑い」を大切に心遣いを遵守し様々な活動を実践している。朝礼では利用者の笑顔や成功について報告し、職員の喜びとして共有に務めている。小さなことの積み重ねや笑顔を常に意識した取り組みがある。職員個々の年度目標を、事業所内に掲示し、可視化した取り組みに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事、学校行事等には積極的に参加し地域に溶け込めるよう努めていたが、コロナ禍で閉ざされた状態である。	コロナ禍であり地域との活動や交流は難しいが、地域清掃活動を継続し地域の方との挨拶などふれあいの機会を大事にしている。「みらさか連絡会議」での地域情報の共有や意見交換を通じ、地域の関係者・機関との連携に努めている。職員からも地域の情報を得て、地域交流に活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	昨年からの地域清掃活動も継続し実施している。民生委員・地域包括支援センター・社会福祉協議会・三良坂近辺の高齢者福祉事業所で構成されている「みらさか連絡会議」にもコロナで中止以外は出席し、困難事例について意見交換をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	小規模三良坂と合同で、2カ月に一回運営推進会議を実施しており、ご家族代表、民生委員、支所の保健師、地域包括支援センター、高齢者福祉課、駐在警察官等関係各所よりご参加頂き意見交換の場としている。現在コロナの関係で三次市の指導のもと資料配布にて報告としている。7月のみ開催した。	隣接する小規模多機能型居宅介護と合同で実施し、現在は市の指導の元、書面開催としている。広報誌や写真などを資料に添付し、取り組みが伝わるように努めている。事故、ヒヤリハットも詳細に報告し関係者の理解促進に務めている。全家族に議事録を送付し活動の理解が深まるようにしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	全体的には法人本部が窓口となっている。運営推進会議や地域密着連絡会議などに三次市も出席され常に連絡は取っている。	全体的には法人本部が窓口となり市との連絡をとっている。事業所の意見をまとめて行政と話をしていくことを突き詰めていくことを今後の展望として考えている。運営推進会議や三次地域密着型サービス連絡会では意見交換を行い連携や情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内の研修は現在コロナ禍で中止となっているが、各事業所ごとの現任者研修において「身体拘束ゼロへの取り組み」等の研修を二回実施していると共に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間2回の研修や現任者研修において身体拘束防止について理解を深めており、日常から現場において気になることは直ぐに話をあげて検討を行い早急な対応を心掛けている。身体拘束廃止検討委員会で個別の状況についても検討しており、職員全員で認識し身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修は現在コロナ禍で中止となっているが、各事業所ごとの現任者研修において「高齢者の虐待について」等の研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内の研修は現在コロナ禍で中止となっているが、事業所内研修を必要に応じて実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時 「契約書」「重要事項説明書」について理解できないことのないように十分説明し、同意を得てから契約していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関の意見箱は面会制限で活用されていない。平素よりご家族には状況報告等をしており現状が分からない事はなく、その都度ご意見もいただいている。ご要望に応じての対応も心掛けている。また、運営推進会議でもあらゆるご意見を頂き運営に反映できるよう努力している。	職員は利用者との日々の関わりにおいて、何を望まれているのか耳を傾け、思いを汲み取ることに努めている。利用者の意向に沿って柏餅作りなどを行ったり、コロナ禍での面会制限については、家族から「様子が知りたい」という意見に、生活の様子を写真撮影しメールで送付した例もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の人事考課も評価の方法を自己評価とし、それに対し他者評価をし面談をしている。毎月の職員会議でもそれぞれの意見を言える様な機会を設けているが、コロナ禍で会議に強制参加でない為意見は少ない。出た意見に対して他の職員と意見を出し合い情報の共有をしている。	管理者は毎月の職員会議や日常業務、年2回個別面談などを通じ、職員一人ひとりの思いや考えが表現でき、気軽に意見が挙げられるように配慮しながら把握に努めている。公休の希望に法人と検討を重ね、月公休を1日増やしたことや休憩時間の取り方を工夫し改善した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度の導入により、個々の努力や実績が反映されるように努めている。「働き方改革実践企業認定」「魅力ある介護・福祉の職場宣言広島」プラチナ認定法人として、職員の育児休暇や介護休暇、メモリアル休暇などを推奨し認定されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修・内部研修はコロナ禍で中止である。外部研修に行った職員が法人内で伝達研修を行う取り組みもコロナ禍で中止している。新人研修・現任者研修など自分磨きに精進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着型サービス連絡会の継続で、他事業所との研修会には積極的に参加し自己研修にも努めていたがコロナ禍で中止となっている。7月に役員交代などの事もあり会議があった。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前から本人と事前面接を行っている。入居後は新しい環境に一日も早く慣れて頂けるように声掛けし、コミュニケーション作りに職員全員で取り組んでいる。また、職員一人一人が傾聴に務め、本人の安心・安全を確保している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前から本人やご家族との事前面接で、不安や困っている事、願い等伺い新しい環境に早く慣れて頂けるよう関わりを持っている。その都度状況の報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況や本人・ご家族の思いを聞き状況に応じて必要な支援を調整し、法人全体でもサービス利用調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「一緒に大笑い 楽しい一日を有難う」をモットーに、日々の生活を家庭での生活に近いものとし、昔の思いを大切に職員と入居者でなくご家族の様に、共に支え合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族との連絡を取り、定期的に状況報告に努めている。そして、本人が安心して生活して頂けるようにご家族と共に協力し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナ禍で地域の方との関係は継続できていない。	コロナ禍で面会や外出が難しいが、個別にドライブを行い、車から懐かしい馴染みの景色を見てもらったり、手紙のやり取りの支援や電話で話ができるように繋ぐなど、個人の繋がりを大切にできるよう心掛け支援している。利用者個々の思いを支え馴染みの関係が継続できるよう務めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士のコミュニケーションをとりやすいように職員が関わりを持ち、お互いが「ありがとう」と言える様な関係作りの支援を職員が行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了になられた方も行事の案内を送ったり、他機関との連携を図れるように支援したりする。利用終了後に他のサービスについて相談がある場合もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴を尋ね希望に添えるように、今までの暮らし方が継続出来るように努めている。本人の思いが不可能な場合でも、コミュニケーションを密にとり、出来るだけ本人の思いに添えるよう努めている。	生活歴や日々の生活から個々に思いを確認している。夫婦で利用し、長年支え合い過ごしてきた暮らしを継続させ、安心して生活できた例がある。タブレット端末を活用し、利用者情報の共有に努めている。表現の難しい方は家族から話を聞き、表情などから汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面接や聞き取り、入居後の生活の中でこれまでの生活歴等を尋ねたりしている。また、ご家族からできるだけ生活の様子の情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活記録や申し送り等で現状を把握している。一人一人の過ごし方も違い、その人に応じた生活も記録に残し状況把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者にはそれぞれ担当職員が付き、介護支援専門員と担当職員が中心になってアセスメントをし、介護支援専門員が具体的な計画を作成している。	本人や家族には事前に思いを確認し、管理者や介護支援専門員、看護師、担当職員で検討し介護計画を作成している。布の端切れ作りや洗濯物をたたむなど生活の役割やライフサイクルとして本人を活かすプラン作りがなされている。モニタリングは毎月行い、振り返りを順次計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	365日24時間の記録をし、職員間で情報の共有に努めている。状態によってはケース会議等をし介護支援専門員が本人の必要な支援に計画変更、職員は共有し個別支援をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて法人内他のサービスも紹介したりして、本人らしい生活ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源はあるがなかなか難しく、協力して頂けるところから取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	町内にかかりつけ医があり、週1又は月1往診に来ていただいている。希望や状態に応じて他の医療機関でも診療を受けられるように支援している。	利用者の半分は以前からのかかりつけ医を継続している。協力医を主治医とする場合でも週1回から月1回など状況に応じての往診があり、適宜、看護師や管理者は連携を図り支援している。歯科受診や眼科など専門科への受診も適切に支援するよう務めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の配置をし、日常の健康管理を行っている。また、主治医や他の医療機関との連絡を取り、受診や適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中 本人やご家族が安心できるように、地域連携室との調整や情報交換は管理者や介護支援専門員がしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人やご家族に「看取りの指針」を説明し意向を確認後支援している。契約時に意向をお聞きし、本人やご家族の意思に沿えるよう取り組んでいる。	利用開始時に、重度化した場合や看取りの指針を説明し意向を確認している。実際に重度化や終末期の状態になった時に再度意向を確認し同意書を得て支援している。主治医と家族の話に基づきカンファレンスを行い、職員全員で検討し、思いに寄り添い最後の時間を大切にできる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人研修の中で「救急救命講習」を実施していたがコロナ禍で中止となっている。その都度、職員会議や看護師が指導したりしている。夜間対応も待機職員を配置し、急変時等にも対応出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を含め、年間12回毎月担当職員を変え実施している。夜間想定、水害、地震、火災等あらゆる想定で入居者だけでなく地域消防隊、地域住民、運営推進委員等の参加してもらっている。	様々な災害を想定した避難訓練を、地域消防隊や運営推進会議のメンバーの協力を得て毎月実施している。防災意識の向上を目的に、訓練の企画は職員がローテーションで担っている。食料の備蓄は2週間分を備え、有事の際には法人を挙げてのサポート体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人内の「こうしようルール」を毎日朝礼で読み合わせ、人生の先輩として尊敬しプライドを損なわない様な対応や声掛けを心掛けている。	人権や接遇の研修も定期的を実施している。「こうしようルール」という項目ごとに理由も明確に整えられた法人全体の職員行動規範があり、毎朝に項目の読み合わせを行い、職員の資質の向上、利用者を尊重するケアとなるように取り組んでいる。羞恥心にも細心の注意を払った対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	あくまでも職員が選択・決定するのではなく、本人の意思を尊重し依頼する言葉かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	併設の小規模利用者と毎日足浴やレク・散歩などを楽しまれるが、気分の乗らない時やしたくない時は本人の言われるようにお部屋でゆっくりされる。食事無理なく本人の状況に合わせている。それぞれのペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	以前は馴染みの病院に行かれたりしていたが、コロナ禍でどこにも行けなくなっている。パーパーみらやという形で事業所職員のカットとなっている。事前に本人・ご家族に許可を頂き実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	みらみら農園で皆さんが植えた野菜を収穫し食材としている。季節を感じてもらうため時季に応じたおやつ作りを一緒にしている。野菜の皮むき等も皆さんで楽しくやってもらっている。嗜好調査も実施し、出来るだけ入居者の希望を取り入れられるようにしている。	昼食、夕食と外注であるが、敷地内で収穫した野菜などを利用者に切ってもらい、おかずを一品増やしたり、できることを行ってもらうことで楽しみとなっている。時期に応じたおやつ作りを行うなど季節感のある食の支援に取り組んでいる。パン食の変更など個別の希望にも応じている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	とろみが必要な方にはお汁・お茶・水・他の水分にはとろみをつけ提供している。日中の水分補給も6回はお茶・ポカリスエット・アクエリアス・カルピス・しそジュース・ジンジャージュース等飽きないように工夫し水分補給に努めている。一日の水分をトータルし記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声掛けをし、自力で出来ない方は介助し口腔内の清潔を保っている。毎晩ポリデント洗浄を実施している。毎週義歯入れ・歯ブラシ・コップなどを消毒し天日で乾燥させ衛生管理をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄状況を参考に排便管理をしている。本人が意思表示されなくても失禁がある場合は排泄誘導をして、不潔・不快にならないように努めている。夜間も意思表示のある方はその時に、ない方はパット交換やトイレ誘導をしている。	利用者毎の排泄状況をタブレット端末に入力・共有し、利用者の様子や状況を観察しタイミングに合わせ一人ひとり個別にその状態に合わせた排泄の支援を行っている。トイレ介助を拒否される方へも、根気強く勧めていくことで介助が行えるようになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表で申し送りをし、看護師の判断と医師の指示で対応している。水分調節や適度な運動も看護師の指示で実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	小規模との併設でお風呂は一か所なので個々の希望が100%取り入れられていない。職員は2人態勢で安心・安全であるが狭いこともあり満足ではないと思う。入浴されない方は毎日足浴を実施し、マッサージを行うことで水虫・浮腫等を軽減させており良好な状況がみられている。	週2回の入浴を行っている。併設する小規模多機能型居宅介護とお風呂を兼用しているため柔軟な対応に限りはあるが、本人の意向に沿った支援に努めている。リフト浴も設置し身体状態に合わせた入浴ができ、同性介助にも対応している。入浴日以外は足浴を実施しフットケアにも取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	それぞれの居室でゆっくり休ん でいたり、食堂ではソファを置 きゆったりとした空間作りをし ている。皆さんアで談笑されたり テレビを見られたりと家庭のよ うに生活されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	お薬情報を全職員が周知してお り、特変あれば看護師よりかか りつけ医に連絡し薬の変更とな る。変更・追加などあれば申し 送りや朝礼で報告・伝達する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	毎日皆さんで楽しまれている。 夕方のレクでは、キャプテンも 決まり掛け声でお互いを応援 し合い楽しい時を過ごされる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	お天気に合わせて外でティー タイムをしたり、散歩に出かけ たりする。公用車の関係で車 椅子の方は一人しか行けない がドライブなどにも出かけてい る。コロナ禍になり人のいない ところを探し、お茶をして外気 欲を楽しんでもらっている。	感染症対策を行う中で長時間・ 遠方への外出は難しいが、近 所のお寺までの散歩は日常的 に行っており、少人数でドライ ブを実施し家を見に行ったり など気分転換を図り、紅葉狩 りでは少人数を複数回に分け 予定を組み毎週行うなどでき ることに着目し検討を行い実 践に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	本人がお金を持っていたいとい われる方は、ご家族と話し本 人持ちで管理をしてもらって いる。他の管理が難しい方は ご家族又は事業所で管理させ ていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持たれておられる方は、充電しっぱなしで使えない様子だがご家族の強い要望で持たれている。事業所の電話で近況を伝える時に本人と変わりお話を頂くようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭に近い環境作りに努めているが、あらゆるところが古くなりその都度修理してもらい、入居者が不便にならないようにしている。不便と思われる所は職員が手を掛け修理したり入居者が使い勝手の良いようにしている。建物周辺の環境整備も職員全員で行い、ご家族・来客の方から不快感を招かない様に努力している。季節の花も入居者と植え季節感で満載である。	民家を活用した環境であり、家庭的な雰囲気が自然と気持ちを和ませ、部屋から差し込む陽やリビングに設けられた天窓から程良い採光がある。その空間においてゆったり団欒で過ごしている様子は、和やかな家庭の情景となっている。季節の花が玄関やテーブルに飾られ彩られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを増やしたこともあり好みのところで談笑されている。みんなで集まれるレクの部屋でソファに横になられたり、音楽を聴かれたり、テレビを見られたりと入居者は自分で好きな居場所を選ばれ過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にお気に入りの家具などの持ち込みについて話させて頂くが、最近あまり持ち込まれていない。事業所にあるもので良いですから使わせてくださいと言われる。	利用開始前に、自宅の居室環境を確認し整えている。馴染みの家具や調度品の持ち込みも可能としており、写真や作品を掲示し、民家の部屋であることから生活の雰囲気もあることで、落ち着いて過ごせる環境作りに努めている。生活動線も習慣に合わせベッドなどの家具を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人でも安心・安全と思えるように手すりを増やしている。玄関にも手すりをつけ玄関からの出入りも出来るようになっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみら屋

作成日 令和3年11月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域行事・活動への参加ができていない。	コロナの状況を見て地域への貢献他を行う。	・地域清掃活動の継続。 ・地域行事への参加。	1年
2	6	利用者、家族の思い等をくみ取る。	利用者に寄り添い思うをくみ取り、家族に安心安全な思いを持っていただく。	・利用者の方と話の出来る時間を作る。 ・家族に今以上の報告をする。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。